高度化教養（大分を創るトップアップ科目）の試行のための「玖珠町八幡地区の地域課題の分析」

地域が持っているもの

- 神社、祭り　が多い
  地域住民のつながりを大事にして、培ってきた文化
- すばらしい笑顔
- 大人が子供に教える
  子供が子供に教える　風土
- 地域による子供の勉強塾
  偏差値が平均値より高い

１．子供が健全に育つ場がある（ふるさと愛の教育）

- 多様な催しが活発に展開されている。文化祭に４００人（全住民の１／４）も集まるのはすごいこと

２．多様なことに抵抗なく取り組める住民の気質
３．こだわり農業名人の存在
篤農家的な名人農家、プチ6次産業の実施などを個人で展開
４．やる気が高い自治会メンバーと先輩役Ｉターン移住者の存在

既存の団体の枠を超えた新組織や、新しい仕組み（外来者が自治会に入会しなくても共同活動できる仕組みなど）作りの対応をする必要があるのでは？

「迷惑をかける」との理由で自治会館組織から抜ける高齢者が増加

地域防災の危機
- AED運用と消防団管理
- 平日出動可能な団員少

消防団になり手がいない（入団すると面白いのに）

全ての企画において５０代未満の参加が少ない

高齢者による高齢者の救急体制

隣の「街」への子供家族の移住

空き家増加　（貸したいが法事や仏壇などで貸せない）

家の後継者無し

地域外への進学、就職

伝統芸能の継承不安
- 若者が参加しやすい仕組みが必要
- 長老に意見いえない
- 子供御輿の危機

学校跡地の活用策

学校の統廃合

地域経済の不安

地域の子供が少ない
出生数の減少

古後（地域）に残りたい子供もいる

農林業の売値単価が激減

既婚女性の減少

農林業以外の給与をもらう職場無し

若手女性の活躍が見えない

地域のマインドセット必要
「今もっているもので何ができるのか」

いつも人が集まっている場所に変える

やらされるものは続かない

うち手　ー　着手点

仮説１．
若者　も　高齢者（倒れる直前まで）　も、八幡で働く（輝ける、必要とされ生き甲斐を感じる）仕組みがあれば良い

高齢者、若者も共に作業して、小さな収益をあげるもうけ話から開始しませんか。小さな6次産業など

仮説２．
女性の小さな経済
女性陣の数名のグループによる小さな加工品ビジネス

八幡自治会　Ｙ　プロジェクト
若者の意見を聞く「今を変えよう」
関心準備期

地域変革への問題点

- 男性のみの声を分析している。女性（特に出産可能、育児期、指導的立場）の声がヒアリングされてない。
- 行動に移して成功に向かっている住民と動かない住民の混在
- 個人で営む農作物生産以外でプチ6次産品など「自ら新たな仕事をつくっていく」姿勢が少ない。
- 改革路線で進んでいる方がおられる反面、今の生活のままで良いと考えている高齢者も多い。意識が異なる方々が混在し、世代間のギャップが存在する。
- やらないといけない（これはいいね）との意識はある。しかし、かってでる人がいない。
- 生産者ごとに高低がある農業技術が、一定の品質規格の地域農作物を地域でまとめることを妨げている。

課題

- 住民のやる気と本気を強化し、「傍観の克服」を図るには？
- 「自ら仕事を作り出す」ための着手点は？
- 世代間のギャップを橋渡しする着手点は？
- 良いと感じたことを産業化にまでもっていくには？

- 学校跡、休園幼稚園（廃園後）をプチ起業、の場に、週一回の茶話会型の販売所

月　宿利さん　甘い赤梅のデザート
火　豊田さん、田坂さんら　＊＊＊＊
水　Ａさん　　＊＊スイーツ販売
木

- 学校跡、休園幼稚園（廃園後）を若い男女（地域の方は居住と地域外の方は宿泊）が出会うシェアハウス

2016利益共有型インターンシップ（地域豊じょう型）の活動を基に八幡地域に呈示した分析結果（課題と長所）。